

市町村名：常滑市

協議会名：常滑市観光活性化案内標識整備検討協議会

対象地域の設定	中部国際空港、常滑港、名鉄常滑駅、知多横断道路常滑ICから「やきもの散歩道」を中心としたエリアとする。
基本方針の策定	<p>〈基本戦略〉</p> <p>①マイカー及びレンタカーを使って来訪する人たちが陶磁器会館又は駐車場まで抵抗なく来られるようにする。</p> <p>②鉄道等を利用して来訪する人たちが公共交通機関を降りてから「やきもの散歩道」へ抵抗なく来られるようにする。</p> <p>③やきものまちの中における案内標識の役割を明確にし、改善する。</p> <p>〈基本的留意事項〉</p> <p>①「やきものまち・常滑」を印象づける工夫をする。</p> <p>②誰もが使いやすい情報を提供する。</p> <p>③スムーズな誘導をする。</p> <p>④景観へ配慮する。</p> <p>⑤他メディアとの相互の補完による情報発信をする。</p> <p>〈案内標識改善に向けての運用の考え方〉</p> <p>①関連する全ての組織の強調による施策展開をする。</p> <p>②継続的なマネジメント組織を確立する。</p>
情報掲載基準の作成	<p>○図解標識、指示標識、同定標識、その他標識等ごとに陶磁器会館及び登窯広場等の記載内容等を整理。</p> <p>○言語表記は、日本語、英語(ローマ字)、ピクトグラムを基本とする。</p> <p>○イメージカラーは常滑の代表的な特産物である「朱泥急須」の「赤茶色」を基調とした茶系色で統一する。</p>
他メディアの整備方針の検討	<p>○手持ちマップ等：「やきもの散歩道」を中心とした案内標識を補完する統一された手持ちマップの作成等</p> <p>○インターネット：やきもの散歩道、大野の町並み、セラモール、盛田味の館等の常滑の観光資源の情報発信及びそれぞれのアクセスルート等</p> <p>○観光案内所：ガイドマップやパンフレットなど紙媒体の集約・配布等</p> <p>○ボランティアガイド：きめ細かい「生きた情報」を発信できるガイドの育成等</p>
次年度以降の推進体制	多様な整備・管理主体が参画するマネジメント組織である(仮称)常滑市観光活性化案内標識整備推進協議会を速やかに設立し、案内標識及び他メディアに関する具体的な検討や整備後も継続的に情報の更新や改善等に取り組む。
ガイドラインの改善すべき点	<p>○常滑市では、「基本戦略」という項目を追加し、標識整備の留意点として、幹線道路や公共交通機関からのアクセスを整理したもので、ガイドラインにおいてもその土地ごとの具体的な留意点にも配慮する必要がある。</p> <p>○ガイドラインは歩行者系の標識のみが対象となっているが、車両によるアクセスが考えられる地域は、車両系の案内標識も配慮する必要がある。</p> <p>○ガイドラインでは、図解・指示・同定標識の3種類以外の標識としても説明標識、規制標識、路面表示についても観光地の実情を踏まえ増やす必要がある。</p> <p>○ガイドラインでは多言語表記やピクトグラムについては国際標準のみの記載にとどまっているが、地域の独自性を考えた場合、独自のシンボルマークやイメージカラーについても言及する必要がある。</p> <p>○ガイドラインでは補完という基本方針があげられているが、詳細は示されていない。やきもの散歩道のようにまちの景観に配慮するため、標識を最小限設置する場合は、観光客への配布マップやホームページなどによる情報が重要になってくるため、標識と他メディアがどんな役割を果たすか整理する必要がある。</p>

【エリア図等】

